8B-2 No. 63

年少労働調査資料第No.61集

生産現場における高卒青少年労働者の意識に関する調査

——結果報告書——

昭和45年5月

労働省婦人少年局

はしがき

婦人少年局では、毎年、青少年労働者に関する調査を実施してきたが、今回は、高校卒就職者の生産部門への増加が目立つている現状にかんがみ、その実態を明らかにするため、この調査を行なつた。

この報告書が、青少年労働問題に関心をもたれる方々のご参考になれば幸である。

なお、ご協力を頂いた方々に対し、深く感謝の意を表する次第である。

労働省　婦人少年局長
高　橋　展　子

目　　次

はしがき

Ⅰ 調査の概要 …… 1

Ⅱ 調査結果の概要 …… 2

Ⅲ 調査結果 …… 4

1. 事業所における高卒者について …… 4
2. 調査対象青少年労働者の概況 …… 4
   (1) 年令別構成 …… 5
   (2) 居住状況 …… 5
   (3) 履修課程の状況 …… 6
   (4) 勤続年数 …… 6
   (5) 主な職種 …… 6
3. 生産現場に働く青少年の意識 …… 9
   (1) 就業までの状況 …… 9
   (2) 生産部門への配置状況 …… 11
   (3) 生産部門の仕事に対する評価 …… 13
      A. 今の仕事に興味があるか …… 13
      B. 今の仕事はむづかしいか …… 14
      C. 高校教育は今の仕事に役立つているか …… 16
      D. 今の仕事はきついと思うか …… 16
      E. 事務系と現場系で処遇に差があると思うか …… 17
      F. 企業の中心は現場であると思うか …… 19
      G. 生産現場で働くことに生甲斐や誇りを考じるか …… 20
   (4) 高卒者の生産現場就労についての意識 …… 21
   (5) 生産部門への定着意識 …… 22
   (6) 仕事や職場に対する希望 …… 25
   (7) 将来の職業生活についての意識 …… 26
4. 事業所における勤労意欲向上対策 …… 27

統　計　表　目　次

表 1.　調査対象事業所における各部門別青少年労働者の構成 …… 4
表 2.　調査対象青少年労働者の年令別構成 …… 5
表 3.　調査対象青少年労働者の居住状況 …… 5
表 4.　調査対象青少年労働者の履修課程状況 …… 6
表 5.　高校在学中に働きたいと希望していた部門 …… 10
表 6.　この会社を選んだ理由 …… 10
表 7.　生産部門への就労理由 …… 11
表 8.　生産部門への配置状況 …… 12

表 9　配置の時期 …… 13
表 10.　今の仕事に興味があるか …… 13
表 11.　今の仕事はむづかしいか …… 15
表 12.　高校教育は今の仕事に役立つているか …… 16
表 13.　今の仕事はきついと思うか …… 17
表 14.　事務系と現場系で処遇に差があると思うか …… 17
表 15 の 1　昇進、昇格についての生産部門と技術部門との比較 …… 18
表 15 の 2　昇進、昇格についての生産部門と事務部門との比較 …… 18
表 16.　管理職昇進についての方針 …… 19
表 17.　企業の中心は現場であると思うか …… 19
表 18.　生産現場で働くことに生甲斐があるか …… 20
表 19.　生産現場で働くことを誇りに思うか …… 21
表 20.　高卒者の生産現場就労についての意識 …… 22
表 21.　生産部門の仕事への定着意識 …… 23
表 22.　生産部門に従事する高卒者の将来の配置についての事業所の方針 …… 25
表 23.　仕事や職場に対する希望 …… 26
表 24.　将来の職業生活についての意識 …… 27
表 25.　事業所における生産部門に従事する高卒者に対する勤労意欲向上のための配慮 …… 27

図　表　目　次

図 1.　生産部門の仕事に対する興味……14
図 2.　今の仕事はむづかしいか　……15
図 3.　企業の中心は現場であると思うか……20
図 4.　生産部門の仕事への定着意識……24

I 調査の概要

1 調査の目的

近年、新規中卒就職者の著しい減少や、技術革新の進展に伴つて現場作業にも、より高度の技能、知識が要求されていること等から、高卒者を生産部門に就業させる傾向が目立つている。このようにいわゆる高卒のブルーカラー化が進むにつれ、新たな問題も提起されてくるものと考えられるので、生産部門に従事する高卒青少年の意識の実情を明らかにし、今後の行政の参考に資するためこの調査を行なつたものである。

2 調査の対象および調査方法

(1) 事業所

4大工業地帯およびその周辺（埼玉、千葉、東京、神奈川、静岡、愛知、京都、大阪、兵庫、福岡）における常用労働者500人以上を雇用する製造業とし、昭和41年事業所統計調査より、当該地域に事業所の多い下記7産業（中分類）を選び、当該産業の事業所分布に対応して抽出した208事業所に対し、調査員の面接により実施した（回収数204）。

・食料品製造業・繊維工業・化学工業・鉄鋼業・機械製造業・電気機械器具製造業・輸送用機械器具製造業

(2) 青少年

前記(1)の事業所の労働者名簿より、生産部門に雇用される年令満18才～21才高卒青少年1事業所20人を抽出し、被調査者の自計により実施した（回収数3,692）。

3 調査の時期　昭和44年9月

4 調査機関　労働省婦人少年局

Ⅱ　調査結果の概要

1　生産部門へ就業するまでの状況

(1)　高校在学中の希望としては、生産部門への就業を希望していたものは2割弱であり、男子は技術部門、女子は事務部門を希望していたものが多い。また、履修課程別には、工業科では技術部門、普通科と商業科では事務部門の希望が多かつた。

生産部門について何らかの積極的姿勢をもつて就労したものが3割強、「仕事の分野にこだわらなかつた」ものが$\frac{1}{3}$弱、「希望はしなかつたが配属された」ものが43.3%ある。

(2)　青少年が生産部門への配置を知つた時期は「応募の時点」および「採用決定の時点」では$\frac{1}{3}$にすぎない。事業所調査によると、「一定期間の研修後配置する」が多い。

2　生産部門の仕事に対する評価

(1)　仕事に興味があるか、どうかについては、「何とも思わない」が最も多く、約4割あるが、男子は「おもしろい」が「つまらない」より多く、女子は「つまらない」というものが多い。工業科出身者は「おもしろい」という答の率が高い。

(2)　今の仕事は「むづかしい」と答えたものは17.1%で少なく、「やさしい」「ちようどよい」は40%台で特に女子の場合「むづかしい」は1割に足りない。

(3)　高校教育が今の仕事に役立つているかについては「どちらともいえない」「わからない」というものが$\frac{1}{3}$以上を占めるが、「役立つていない」(40.7%)が「役立つている」(21.7%)を上廻つている。ただし、工業科出身者のみは、「役立つている」が「役立つていない」より高率である。

(4)　今の仕事について「疲れる」(精神的24.3%、肉体的31.9%)は「普通」(37.5%)を上まわつており、特に交替制勤務のものに肉体的疲労を訴える割合が高い。

(5)　事務系と現場系の処遇上の差異については、差を意識していないものが64.1%あり、「事務系が有利」と思つているものは3割程度、「現場系が有利」と思つている者は5.4%である。一方事業所調査で、生産現場に働く高卒者の昇進、昇格について、事務部門、技術部門と比較した場合「差異はない」が70%台をこえている。

(6)　企業の中心は「現場であると思う」もの(62.5%)は、「思わない」(13.0%)

をはるかに上廻っている。

(7) 生産現場で働らくことに「生甲斐」や「誇り」を感じるというものは、それぞれ28.7%、28.1%で、「何ともいえない」というものが4割をこえている。一方、生きがいや誇りを感じないというものも約28%である。

3 高卒者の生産現場就労についての意識

高卒現場就労者の増加の現象について、生産部門で働いている高卒者が、どのように受けとっているかを見ると、約7割は積極的あるいは肯定的とみられるうけとめ方をしており、消極的と思われるものは約3割であるが、特に女子に「社会的偏見」を気にしている傾向が見られる。

4 生産部門への定着意識

生産部門で続けて働きたいかどうか「現在のところわからない」ものが$\frac{1}{3}$強あるが、「変りたい」の割合は「続けたい」より高い。

女子、商業科出身者および在学中他部門を志望していた者は4割以上が「変りたい」と答えている。

5 将来の職業生活についての意識

将来も「有能な技能労働者として生産に携わる」希望をもっているものは1割程度しかない。

男子では「専門的、技術者となって会社でつとめたい」が40%近くあり、女子では「免許、資格のいる職業につきたい」(43.3%)、「まだ何も考えていない」(35.2%)と、男女間に可成りの違いが見られる。

6 事業所における勤労意欲向上対策

事業所で高卒生産現場就労者の勤労意欲向上のために行なっている施策としては、「提案制度」(69.1%)をとりあげている事業所が最も多く、「職場カウンセリ

ング」「定期的人事異動」「責任分担制度」の順となっている。

Ⅲ 調 査 結 果

1 事業所における高卒者について

調査対象となった２０４事業所における常用労働者総数は３４７,８８８人で、うち１５才～２１才までの青少年労働者は９３,６０９人である。高卒者は４３,４７８人で青少年労働者の４６.４％を占め、高卒生産工程作業者は２９,４０６人で高卒者の６７.６％を占めている。

表１. 調査対象事業所における各部門別青少年労働者の構成（１５才～２２才）（％）

		計	計				高校卒					その他
			事務従事者	技術的従事業務者	生産工程従事者	その他	小計	事務従事者	技術的従事業務者	生産工程従事者	その他	
計	計	100	11.0	5.3	80.6	3.1	(100) 46.4	(20.1) 9.3	(9.1) 4.2	(67.6) 31.4	(3.2) 1.5	53.6
	男子	100	4.9	8.9	80.9	5.3	(100) 59.2	(7.0) 4.1	(12.6) 7.5	(76.4) 45.2	(3.9) 2.3	40.8
	女子	100	16.4	2.1	80.4	1.2	(100) 35.0	(40.0) 14.0	(3.6) 1.3	(54.3) 19.0	(2.1) 0.7	65.0
1000人以上	小計	100	10.7	5.5	80.5	3.2	(100) 47.5	(19.1) 9.1	(9.6) 4.6	(68.2) 32.4	(3.0) 1.4	52.5
	男	100	5.1	9.2	80.3	5.4	(100) 61.0	(7.0) 4.3	(13.1) 8.0	(76.3) 46.5	(3.5) 2.2	39.0
	女	100	16.0	2.1	80.7	1.2	(100) 34.7	(39.2) 13.6	(3.8) 1.3	(54.9) 19.0	(2.2) 0.8	65.3
500～999人	小計	100	11.9	4.5	81.0	2.7	(100) 43.3	(23.5) 10.2	(7.2) 3.1	(65.5) 28.4	(3.8) 1.7	56.7
	男	100	4.5	7.7	82.9	4.9	(100) 52.9	(6.8) 3.6	(10.8) 5.7	(76.9) 40.6	(5.5) 2.9	47.1
	女	100	17.5	2.0	79.5	1.0	(100) 35.9	(42.4) 15.2	(3.1) 1.1	(52.7) 18.9	(1.7) 0.6	64.1

2 調査対象青少年労働者の概況

本調査は調査対象事業所における高卒生産工程作業者３,６９２人（調査対象事業所における高卒生産工程作業者総数の１２.６％にあたる。）を対象としたが、その概況は次のとおりである。

(1) 年令別構成

年令別構成については（表２）のとおりである。

(2) 居住状況

自宅から通勤しているものは$\frac{1}{3}$程度で、自宅以外に居住しているものが$\frac{2}{3}$、大規模事業所のせいか、全体の約６割が会社の寄宿舎、寮に居住している（表３）。

表 2. 調査対象青少年労働者の年令別構成

(%)

		計	１８才	１９才	２０才	２１才	２２才
計		(3692人) 100	18.9	37.6	27.2	14.2	2.1
規模	500人～999人	(1742人) 100	19.3	36.2	27.4	15.1	2.0
	1,000人以上	(1950人) 100	18.5	38.7	27.0	13.6	2.2
性	男子	(2559人) 100	19.1	37.3	25.9	15.6	2.1
	女子	(1133人) 100	18.6	38.1	30.0	11.1	2.2

注） 事業所によっては学令による採用があるため２２才がいる。

表３. 調査対象青少年労働者の居住状況

(%)

		計	自宅	会社の寄宿舎・寮	間借	民間アパート	その他	不明 無記入
計		100	32.5	59.1	1.6	3.4	2.5	0.9
規模	500～999人	100	32.9	59.9	1.3	3.0	2.0	0.9
	1000人以上	100	32.2	58.5	1.8	3.8	2.9	0.8
性	男子	100	32.1	59.3	1.8	3.7	2.2	0.9
	女子	100	33.5	58.8	1.2	2.9	2.9	0.7
年令	18～19才	100	30.4	63.2	1.4	1.9	2.4	0.7
	20才以上	100	35.3	53.8	1.9	5.4	2.5	1.1

(3) 履修課程の状況

男子は工業科出身者が６７.１％、女子は普通科が５６.３％で最も多い。ついで男子の普通科出身者が１７.５％、女子では商業科が１３.９％みられる。なお、何れも圧倒的多数が全日制の出身者である。（表４）

表4. 調査対象青少年労働者の履修課程状況

（％）

		計	普通科					工業科				
			小計	全日制	定時制	通信制	不記明入	小計	全日制	定時制	通信制	不記明入
計		100	29.4 100	92.4	5.0	1.7	0.9	47.1 100	97.5	1.8	—	0.7
性	男子	100	17.5 100	94.9	4.2	—	0.9	67.1 100	97.4	1.8	—	0.8
	女子	100	56.3 100	90.6	5.5	3.0	0.9	2.0 100	100	—	—	—

商業科					農業科					その他					不記明入
小計	全日制	定時制	通信制	不記明入	小計	全日制	定時制	通信制	不記明入	小計	全日制	定時制	通信制	不記明入	
8.9 100	95.7	3.1	—	1.2	3.8 100	92.2	6.4	—	1.4	9.6 100	92.9	2.8	0.9	3.4	1.2
6.7 100	96.5	2.9	—	0.6	4.0 100	94.2	4.8	—	1.0	4.0 100	99.0	—	—	1.0	0.7
13.9 100	94.9	3.2	—	1.9	3.3 100	86.9	10.5	—	2.6	22.2 100	90.4	4.0	1.2	4.4	2.3

(4) 勤続年数

現在の会社での勤続年数をみると、前記年令別分布からみて、１８才～１９才が多いため、１年未満の占める割合が最も高く（４３.７％）、１年以上２年未満（３３.９％）を加えると約９０％を占める。

３年以上４年未満は４.６％、４年以上は１.７％にすぎない。

(5) 主な職種

就労している職種をみると次の通りである。

産　　業	男　　子	女　　子
食料品製造業	キャンディ、あめ類製造工 洋生菓子職 和生菓子職 パン、ビスケット類製造工 肉製品製造工 包装工 その他の飲食料品製造作業者 その他の電気機械器具組立、修理作業者	包装工 荷造工 キャンデイ、あめ類製造工 パン、ビスケット類製造工 和菓子製造工 洋生菓子職
繊維工業	化学工 染色工 編物工、メリヤス編立工 その他の機械の修理工 その他の製糸紡織作業者	粗紡工、精紡工、織布工 ミシン縫製工 揚返工、かせ取工 その他の製糸、紡績作業者 混打そ工 織機準備工 編物工、メリヤス編立工 合糸工、ねん糸工
化学工業	油脂加工工、 医薬品、化粧品製造工 化学工 その他の電気機械器具組立工 修理工 その他の化学製品製造作業者 生産記録工	医療品、化粧品製造工 その他の化学製品製造作業者 包装工 生産記録工

産　　業	男　　子	女　　子
鉄　　鋼　　業	かじ工、鍛造工 金属　熱処理工 旋盤工、その他の金属切削工、機械工 起重機、巻上機運転士 圧延工 製銑工、製鋼工 その他の金属加工作業者 その他の機械修理工 生産記録工 鋳物工	生産記録工
機　械　製　造　業 （電気機器を除く）	旋盤工その他の金属切削工、機械工 その他の金属加工作業者 製かん工、鉄工、びょう打工 金属熱処理工 溶接工 製図工 その他の機械修理工 その他の機械組立工 手仕上工	ガス溶接工 旋盤工、その他の金属切削工作機械工 その他の金属加工作業者 生産記録工 その他の機械組立工
電気機械器具製造業	溶接工 被覆電線製造工 金属プレス工 旋盤工その他の金属の切削工、機械工 電気機械組立工 電気通信機組立工 その他の電気機械器具組立、修理作業者	電球、真空管組立工 電気機械組立工、修理工 電気通信機組立工、修理工 その他電気機械器具組立修理作業者 その他の金属加工業者 生産記録工 溶接工

産　　業	男　　子	女　　子
輸送用機械器具製造業	旋盤工、その他の金属の切削工、機械工 艤装工 金属プレス工 その他の機械修理作業者 組立工、溶接工 手仕上工、 配管工	組立工 その他の輸送機械組立、修理作業者

3　生産現場に働く青少年の意識

(1)　就業までの状況

調査結果によれば、就職にあたって生産現場就業に積極的意志をもっていたとみられるものは少ない。

高等学校在学当時、生産部門で働きたいという意志をもっていたものは2割足らずにすぎず、男子では63.9％が技術部門で、女子は46.9％が事務部門で働きたいと思っていたと答えている。これは前出のように男子は工業科出身が67.1％、女子は普通科および商業科の出身が70.2％を占めていることと関係があるとみられる。履修課程別には、普通科の40.5％、商業科の半数以上が事務部門を、工業科では77.3％が技術部門を希望していたと答えており、多くのものが在校中の希望と異ったところで働いていることになる。（表5）

表5. 高校在学中に働きたいと希望していた部門

(%)

		計	事務部門	技術部門	生産部門	その他	無記入
計		100	21.2	50.6	19.3	7.5	1.4
性	男子	100	9.9	63.9	19.4	5.9	0.9
	女子	100	46.9	20.5	18.9	11.3	2.4
履修課程	普通科	100	40.5	25.6	21.9	10.6	1.4
	工業科	100	2.5	77.3	15.4	4.0	0.8
	商業科	100	54.6	20.1	12.2	11.3	1.8
	農業科	100	16.3	36.9	34.0	9.9	2.9
	その他(不明を含む)	100	25.1	32.1	29.3	10.8	2.7

今の会社を選んだ理由としては、「親、教師、先輩などのすすめ」によったものが半数近くを占め、「会社の仕事に興味があったから」「会社の製品に関心が高かったから」は、それぞれ12.1%、9.4%と少ない。(表6)

表6. この会社を選んだ理由(MA)

(%)

		計	有名な会社だから	将来性のある企業だから	会社の製品に関心が高かったから	この会社の仕事に興味があったから	賃金等の労働条件がよいから	福利厚生面がすぐれているから	親教師先輩などの推めがあったから	公共職業安定所の紹介があったから	他によいところがなかったから	その他	無記入
計		100	7.7	27.8	9.4	12.1	9.3	4.4	47.6	2.1	16.3	12.1	0.6
性	男子	100	7.5	30.2	11.8	14.3	6.3	3.3	48.3	1.1	15.9	9.4	0.5
	女子	100	8.1	22.3	3.8	7.0	16.1	6.9	46.1	4.5	17.1	18.0	0.8
年令	18～19才	100	7.3	29.8	10.7	12.6	9.7	4.8	47.0	1.6	14.7	12.5	0.7
	20才以上	100	8.1	25.2	7.7	11.4	8.6	3.9	48.3	2.8	18.3	11.4	0.6
履修課程	普通科	100	9.7	27.3	6.0	9.5	12.7	6.2	41.1	3.9	17.6	16.4	0.9
	工業科	100	6.8	27.1	13.1	15.1	5.6	3.3	52.0	0.6	15.4	9.3	0.4
	商業科	100	8.6	33.2	5.8	4.6	15.5	4.9	46.3	3.0	15.2	12.8	1.2
	農業科	100	5.0	38.3	10.6	16.3	8.5	7.1	36.2	—	16.3	7.1	—
	その他(不明を含む)	100	6.5	24.3	5.0	10.8	11.0	3.0	51.1	4.0	17.3	13.3	0.5

注) 1人で2つの回答があるので計は100をこえる。

生産部門に就労した理由について、「現場の仕事に自分が適していると思った」「高校で学んだ知識、技能を生かしたかった」「さまざまの仕事を経験したかった」など、生産部門就労に積極的姿勢があったとみられる答は、いずれも1割前後で、43.3%が「希望はしなかったが生産部門にまわされた」と答えている。

なお、「仕事の分野にはこだわらなかった」ものが$\frac{1}{4}$程度あることは注目に値する。（表7）

表7　生産部門への就労理由　（MA）

(%)

		計	現場の仕事に自分が適していると思ったから	高校で学んだ知識技能を生かしたかったから	仕事の分野にこだわらなかったから	希望はしなかったが生産部門に配属された	さまざまの仕事を経験したかったから	その他	不記入
計		100	14.2	10.2	23.4	43.3	7.2	3.4	2.1
性	男子	100	15.2	13.9	20.3	42.3	6.9	2.7	1.9
	女子	100	11.9	1.8	30.4	45.5	7.9	4.9	2.6
履修課程	普通科	100	18.2	0.6	27.8	41.8	8.6	5.0	2.1
	工業科	100	11.5	17.8	18.0	44.8	6.1	2.6	2.1
	商業科	100	13.4	0.9	26.5	46.0	9.8	4.3	3.4
	農業科	100	18.4	13.5	21.3	39.0	3.5	3.5	1.4
	その他（不明を含む）	100	14.0	9.3	32.8	39.8	7.5	1.8	1.3

注）　1人で2つの回答もあるので計は100をこえる。

(2)　生産部門への配置状況

生産部門で働らくことを、応募の段階で知っていたものは$\frac{1}{4}$程度にすぎない。

調査対象総数のうち、入社後生産部門以外の職場経験者はごくわずかで、大多数が入社以来生産部門で働いているが、就職当初生産現場に配置されたものの$\frac{2}{3}$は入社の時点以後に、生産現場配置を知らされたと答えている。中でも「入社後一定期間の教育訓練をうけた後」配属を知ったと答えたものが44.7%ある。（表8）

表8　生産部門への配置状況

(%)

		計	生産部門のみ						生産部門→他部門→生産部門	他部門→生産部門	その他、無記入
			小計	配置を知った時期							
				応募の時点	採用時点決定の	入社の時点	入社後一定の教育期間後	その他無記入			
計		100	91.9 100	25.0	7.7	21.0	44.7	1.6	1.1	2.3	4.7
性	男子	100	92.3 100	22.7	7.0	19.9	49.0	1.4	1.1	2.1	4.5
	女子	100	91.0 100	30.2	9.3	23.4	35.0	2.1	1.1	2.0	5.3
履修課程	普通科	100	92.6 100	32.0	9.3	21.0	35.7	2.0	1.3	2.6	3.5
	工業科	100	90.7 100	17.7	6.5	20.7	54.1	1.0	1.1	2.2	6.0
	商業科	100	90.9 100	33.2	9.4	21.5	31.9	4.0	1.2	2.7	5.2
	農業科	100	95.1 100	29.1	8.2	20.1	41.1	1.5	0.7	2.1	2.1
	その他(不明を含む)	100	94.7 100	28.3	7.4	22.2	41.0	1.1	0.8	1.5	3.0

なお、事業所調査によると、「一定期間の研修後配置する」という答が8割をこえている(表9)

表9　配置の時期

(%)

		計	採用後すぐ配置する	一定期間の研修後配置する	その他
計		100	16.2	80.4	3.4
規模	500〜999人	100	23.5	74.5	2.0
	1000人以上	100	9.4	85.9	4.7

(3)　生産部門の仕事に対する評価

青少年たちは生産現場の仕事をどのように感じているのであろうか、順をおってみることとする。

A　今の仕事に興味があるか。

「何とも思わない」「おもしろい」「つまらない」が、それぞれ約$\frac{1}{3}$程度の割合となっている。（表10）

表10.　今の仕事に興味があるか

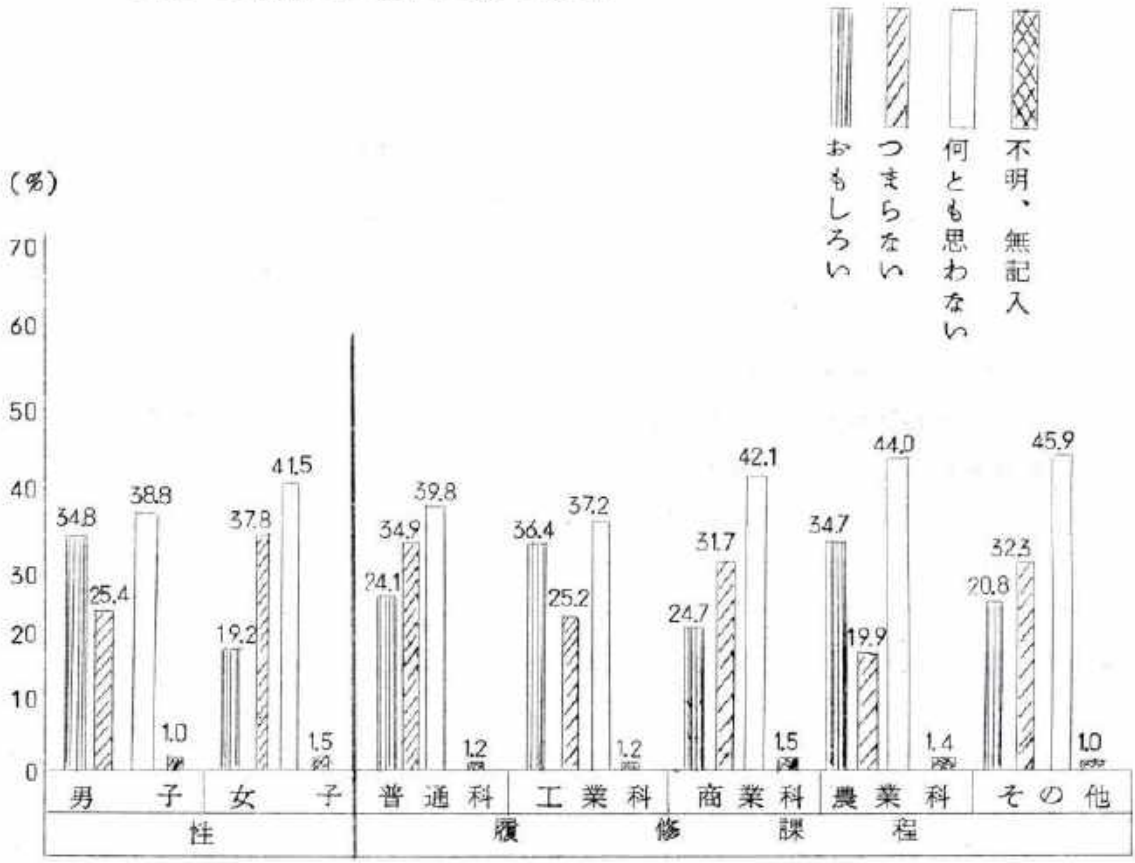
(%)

		計	おもしろい	つまらない	何とも思わない	無記入 不明
計		100	30.0	29.2	39.6	1.2
性	男子	100	34.8	25.4	38.8	1.0
	女子	100	19.2	37.8	41.5	1.5
履修課程	普通科	100	24.1	34.9	39.8	1.2
	工業科	100	36.4	25.2	37.2	1.2
	商業科	100	24.7	31.7	42.1	1.5
	農業科	100	34.7	19.9	44.0	1.4
	その他（不明を含む）	100	20.8	32.3	45.9	1.0

性別にみると、女子では「何とも思わない」「つまらない」が高く、男子では「何とも思わない」「おもしろい」の割合高く、男女の間では可成りの差が見られる。

履修課程別にみると、何れの課程も「何とも思わない」がそれぞれ高い割合を占めているが、「おもしろい」は工業科、農業科で３０％台、「つまらない」は普通科、商業科が３０％台を占めている。（表１０、図１）

図１　生産部門の仕事に対する興味



つまらないという理由の主なものは、「同じ仕事のくり返しで変化がない」「仕事が単純である」が圧倒的に多く、「自分にあっていない」もやや多い。つまらない理由に「自分にあっていない」を選んでいることは、就労時「希望はしなかったが生産部門に配属された」ものの割合の高いこととの関連が考えられる。

B　今の仕事はむづかしいか

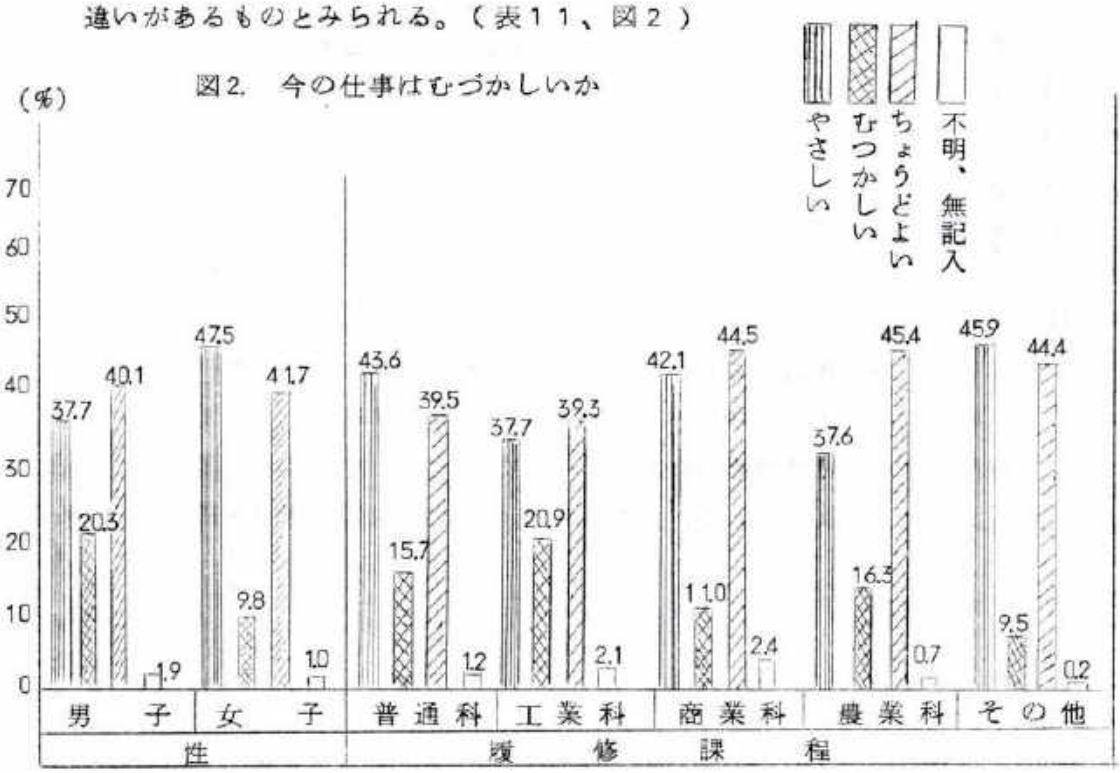
「むづかしい」というものは１７.１％であまり多くなく、「やさしい」「ちょうどよい」はほぼ同じ割合をしめ４０％台となっている。（表１１）

表１１．今の仕事はむづかしいか

		計	やさしい	むづかしい	ちょうどよい	不明 無記入
計		１００	４０.７	１７.１	４０.６	１.６
性	男子	１００	３７.７	２０.３	４０.１	１.９
	女子	１００	４７.５	９.８	４１.７	１.０
履修課程	普通科	１００	４３.６	１５.７	３９.５	１.２
	工業科	１００	３７.７	２０.９	３９.３	２.１
	商業科	１００	４２.１	１１.０	４４.５	２.４
	農業科	１００	３７.６	１６.３	４５.４	０.７
	その他(不明を含む)	１００	４５.９	９.５	４４.４	０.２

性別にみると、「むつかしい」は女子より男子にその占める割合が高く、「やさしい」は女の方に高い割合を占めていることや、履修課程別に「むつかしい」が工業科出身者にやや高いことは、もともと就労している仕事の内容に違いがあるものとみられる。（表１１、図２）

図２．今の仕事はむづかしいか



C　高校教育は今の仕事に役立っているか

約４０％のものが「役立っていない」と思っており、「役立っている」と答えたものを上まわっている。

男女とも「役立っている」は「役立っていない」割合より低く、とくに女子においては半数以上が「役立っていない」と答えている。

履修課程別にみると、「役立っている」は工業科のみが３０％で他の学科は１０％台にすぎない。「役立っていない」は工業科の３０％台を除き、他の学科は４５％以上を占め、とくに商業科は５４％も占めている。（表１２）

表１２　高校教育は今の仕事に役立っているか

（％）

		計	役だっている	役だっていない	どちらとも言えない	わからない	無記入
計		１００	２１.７	４０.７	３３.０	４.３	０.３
性	男子	１００	２６.３	３５.９	３３.８	３.８	０.２
	女子	１００	１１.４	５１.５	３１.２	５.６	０.３
履修課程	普通科	１００	１１.４	４８.６	３４.１	５.８	０.１
	工業科	１００	３２.２	３０.８	３３.８	３.０	０.２
	商業科	１００	１３.７	５４.０	２８.０	４.３	－
	農業科	１００	１７.０	４８.２	２８.４	６.４	－
	その他（不明を含む）	１００	１２.３	４８.４	３２.６	５.７	１.０

D　今の仕事はきついと思うか。

３７.５％が「普通である」と答え、「肉体的に疲れる」「精神的に疲れる」より高いが、肉体的、精神的を問わず「疲れる」は約６０％となっている。

勤務形態別では疲労感の差がはっきりしており、定時勤務の者では「普通である」が４１.４％であるが、交替制勤務の者では肉体的疲労を訴える者が多い。（表１３）

表13　今の仕事はきついと思うか。

(%)

		計	肉体的に疲れる	精神的に疲れる	楽である	普通である	無記入
計		100	31.9	24.3	6.2	37.5	0.1
性	男子	100	32.5	23.8	6.1	37.4	0.2
	女子	100	30.4	25.4	6.3	37.7	0.2
履修課程	普通科	100	36.0	23.5	6.0	34.2	0.3
	工業科	100	29.9	24.8	6.6	38.5	0.2
	商業科	100	29.0	24.1	8.5	38.4	—
	農業科	100	32.6	22.0	4.3	41.1	—
	その他(不明を含む)	100	31.3	24.8	3.8	40.1	—
勤務形態	定時勤務	100	25.8	25.5	7.1	41.4	0.2
	交替制(深夜業を含まない)	100	40.2	22.3	4.8	32.7	—
	交替制(深夜業を含む)	100	42.8	21.9	4.5	30.8	—
	その他(不明をふくむ)	100	45.5	25.0	3.4	23.9	2.3

E　事務系と現場系で処遇に差があると思うか。

「同じ」「何ともいえない」をあわせて、64.1%の者がその差を明確に意識していないが、3割の者が「事務系が有利」と感じ、「現場系が有利」と答えた者は僅かしかいない。(表14)

表14　事務系と現場系で処遇に差があると思うか。

(%)

		計	現場系が有利	事務系が有利	同じ	何ともいえない	無記入
計		100	5.4	29.9	16.8	47.3	0.6
性	男子	100	5.1	30.9	16.8	46.6	0.6
	女子	100	6.2	27.6	16.8	48.8	0.6
履修課程	普通科	100	5.8	32.3	16.6	44.9	0.4
	工業科	100	4.9	28.8	17.6	48.0	0.7
	商業科	100	7.0	31.1	17.1	43.9	0.9
	農業科	100	4.3	31.9	14.2	49.6	—
	その他(不明を含む)	100	5.8	26.5	14.3	52.4	1.0

一方、事業所を対象とした調査結果では、生産現場に働く高卒者の昇進、昇格を他部門の高卒者のそれと比較した場合、「生産、技術」間、「生産、事務」間のいずれにも7割以上が「差異はない」と答え、特に「生産、事務」間では「生産部門が有利」と答えた事業所が2割で、「事務が有利」の6.4%を上まわっている。（表15の1、表15の2）

表15の1　昇進、昇格についての生産部門と技術部門との比較　(%)

		計	生産部門が有利	技術部門が有利	差異はない	その他	不明 無記入
計		100	9.3	7.8	77.5	4.9	0.5
規模	500～999人	100	9.2	10.2	73.5	6.1	1.0
	1000人以上	100	9.4	5.7	81.1	3.8	−

表15の2　昇進、昇格についての生産部門と事務部門との比較　(%)

		計	生産部門が有利	事務部門が有利	差異はない	その他	不明 無記入
計		100	20.6	6.4	71.1	2.0	−
規模	500～999人	100	24.5	6.1	67.3	2.0	−
	1000人以上	100	17.0	6.6	74.5	1.9	−

なお、同じく事業所を対象とした調査で「生産部門に働く高卒者が工場長、重役へ昇進できる道がひらかれているか？」については、「すでに昇進の道は開かれている」「具体的方法を検討中」と前向きな態度をとっているところは75.0%をこしているおり、一方「考えていない」が1割ある。（表16）

表１６　管理職昇進についての方針

(%)

		計	道が開かれている昇進、昇格できる	目下、具体的方法検討中	将来検討する予定	考えていない
計		100	69.6	6.4	12.7	11.3
規模	500～999人	100	67.3	8.2	15.3	9.2
	1000人以上	100	71.7	4.7	10.4	13.2

また、事業所に対して現在の給与体系からみて、３０才になった場合の賃金について尋ねたところ、生産部門と技術部門と比較した場合、「差異はない」６６.２％、「生産部門が高い」は１７.６％「技術部門が高い」１２.３％を占め生産部門と事務部門を比較した場合は、「差異はない」が６３.７％、「生産部門が高い」２７.０％、「事務部門が高い」は８.８％にすぎず、「生産部門が高い」割合がはるかに上廻っている。

F　企業の中心は現場であると思うか。

「思う」が約６割を占め、「思わない」は僅か１割にしかすぎない。(表17)

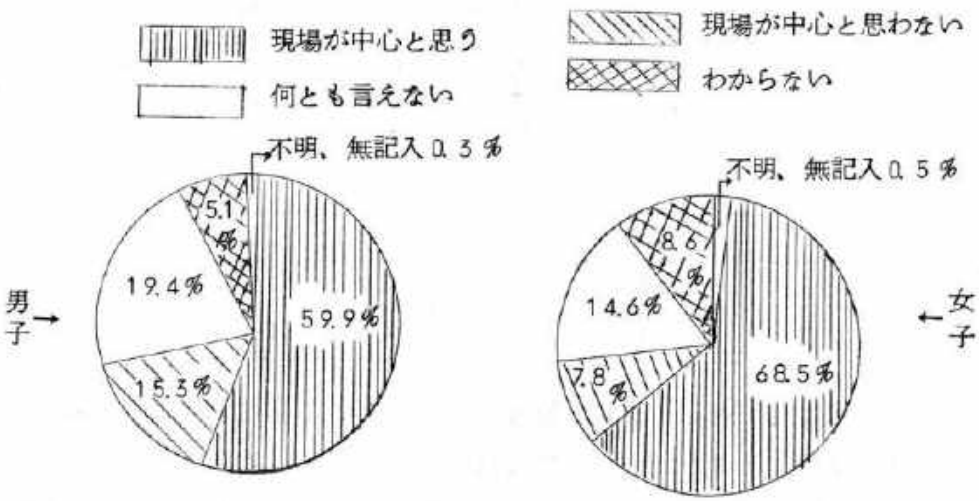
表１７　企業の中心は現場であると思うか。

(%)

		計	現場が中心と思う	現場が中心と思わない	何とも言えない	わからない	不記入
計		100	62.5	13.0	17.9	6.2	0.4
性	男子	100	59.9	15.3	19.4	5.1	0.3
	女子	100	68.5	7.8	14.6	8.6	0.5
履修課程	普通科	100	65.1	10.1	17.0	7.5	0.3
	工業科	100	59.4	16.3	18.9	4.9	0.5
	商業科	100	59.4	12.8	22.0	5.5	0.3
	農業科	100	67.4	9.9	17.0	5.0	0.7
	その他(不明を含む)	100	70.2	7.3	13.5	8.5	0.5

性別にみると、「思う」は女子に、「思わない」「何とも言えない」は男子に、それぞれ占める割合は高くなっている。（表１７、図３）

図３　企業の中心は現場であると思うか。



G　生産現場で働らくことに生甲斐や誇りを感じるか。

「生甲斐」「誇り」の双方とも４割以上のものが「何ともいえない」と答え「生甲斐」や「誇り」を「感じている」ものと、「感じない」ものとはほぼ同じ割合（２８％程度）を占めている。性別では男子に、履修課程別には工業科、農業科出身者に「生甲斐」や「誇り」を感じている者の率が高い傾向がみられる。（表１８、表１９）

表１８．生産現場で働らくことに生甲斐があるか

(%)

		計	生甲斐があると思う	生甲斐があるとは思わない	何とも言えない	不明 無記入
計		100	28.7	28.0	42.1	1.2
性	男子	100	32.1	25.3	41.5	1.1
	女子	100	20.9	34.0	43.7	1.4
履修課程	普通科	100	25.9	31.3	41.8	1.0
	工業科	100	30.7	26.3	41.5	1.5
	商業科	100	25.0	30.2	43.3	1.5
	農業科	100	39.7	22.0	38.3	—
	その他（不明を含む）	100	26.6	26.6	46.3	0.5

表19. 生産現場で働らくことを誇りに思うか

(%)

		計	誇りに思う	誇りに思わない	何とも思わない	無記入 不明
計		100	28.1	28.4	41.5	2.0
性	男子	100	31.1	26.4	40.6	1.9
	女子	100	21.4	32.7	43.7	2.2
履修課程	普通科	100	26.2	32.2	40.1	1.5
	工業科	100	29.6	27.3	40.8	2.3
	商業科	100	24.4	32.9	39.6	3.1
	農業科	100	40.4	21.3	38.3	—
	その他（不明を含む）	100	25.8	21.6	51.1	1.5

(4) 高卒者の生産現場就労についての意識

これまで、生産現場で就労している高卒者が、今の仕事に対してどう思っているかを前項でみたが、高卒者の現場就労が増加している今日、高卒者の生産現場就労についてどう思っているかを知るため、五つの中から自分の考えに最も近いもの一つを選択させた。仮りにイ、ロを積極群、ハを肯定型、ニ、ホを消極群とすれば、肯定型が4割をこえて最も多く、積極群は3割弱、消極群は2割6分である。

性別にみれば、男子の方が積極的あるいは肯定的なものの割合が高く、消極群は女子に高率であり、とくに、女子の27.6%が「社会的偏見があるのでわりきれない」と他人の目を気にしている。

また、生産現場から変りたい意志をもっているものの31.6%がこの項をえらんでいる。（表20）

表20. 高卒者の生産現場就労についての意識

(%)

		計	㋑ 今はブルーカラー中心の時代になるから高卒就業するのが大いに生産現場によい	㋺ 校程度高卒者の職場作業は高度の学力が必要であるので現場は適当である	㋩ 高卒として働らくことに差異はない	㋥ 高校を卒業したのだから現場で働くことには抵抗を感じる	㋭ 社会的偏見があるので現場労働に対してわりきれない	㋬ 無記入
計		100	8.1	21.6	41.2	5.8	20.3	3.0
性	男子	100	9.3	26.2	39.9	4.4	17.0	3.2
	女子	100	5.6	11.3	44.0	9.0	27.6	2.5
履修課程	普通科	100	7.7	15.4	42.4	7.0	25.0	2.5
	工業科	100	9.4	27.2	38.0	4.7	17.1	3.6
	商業科	100	4.9	15.9	44.2	9.1	22.9	3.0
	農業科	100	7.1	26.9	44.7	5.0	15.6	0.7
	その他（不明を含む）	100	7.0	17.0	47.9	4.8	20.8	2.5
定着意識	続けたい	100	11.8	29.6	48.6	1.8	7.5	0.7
	変りたい	100	6.4	15.9	32.0	11.4	31.6	2.7
	わからない	100	7.9	22.6	46.6	2.8	18.2	1.9
	不明、無記入	100	3.3	16.3	26.1	3.3	6.5	44.5
高校教育	役だっている	100	8.2	33.6	39.3	3.5	12.3	3.1
	役だっていない	100	7.7	13.2	40.1	8.5	27.1	3.4
	どちらともいえない	100	8.5	24.3	43.4	4.1	17.9	1.8
	わからない	100	10.0	19.4	44.4	4.4	15.6	6.2
	不明、無記入	※100	—	※44.4	※22.2	—	—	※33.4

(注) ※印はサンプルが少ない。

(5) 生産部門への定着意識

生産部門で続けて働きたいかどうか「現在のところわからない」ものが$\frac{1}{3}$強あるが、「変りたい」という割合（37.2%）が、「続けたい」（24.1%）よりも高い。特に女子は44.5%が変りたいと答えている。

高校在学中に希望していた部門別にみると事務部門、技術部門を希望していた者は「変りたい」の割合がそれぞれ48.7%、42.3%あり、もともと生産部門

を希望していた者は「続けたい」が47.7%で、相当数のものが、在学中の志向を変えていない。（表21、図4）

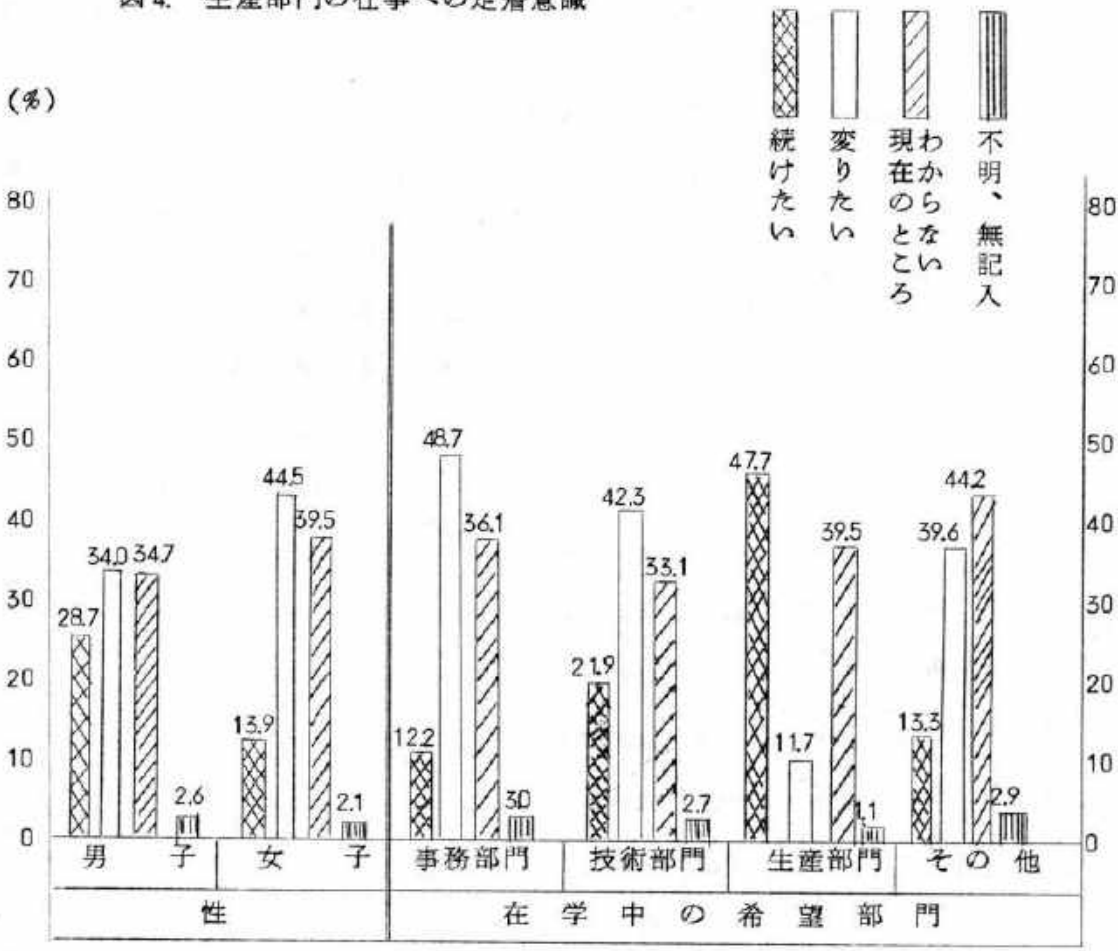
表21　生産部門の仕事への定着意識

（%）

		計	続けたい 小計	事務にむいないので	技術を身につけるため	その他	無記明入	変りたい 小計	事務関係	技術関係	その他	無記明入	現在のところわからない	無記明入
計		100	24.1 100	25.7	65.0	8.4	※ 0.9	37.2 100	20.6	56.8	21.8	※ 0.8	36.2	2.5
性	男子	100	28.7 100	19.8	74.4	5.0	0.8	34.0 100	9.8	73.6	15.9	0.7	34.7	2.6
	女子	100	13.9 100	53.5	21.0	24.2	1.3	44.5 100	39.3	27.8	21.9	1.0	39.5	2.1
履修課程	普通科	100	20.7 100	38.7	45.3	15.6	0.4	39.5 100	33.6	34.1	30.9	1.4	37.6	2.2
	工業科	100	26.3 100	17.1	77.7	4.4	0.8	36.2 100	3.5	83.2	12.8	0.5	34.6	2.9
	商業科	100	20.4 100	23.9	64.2	11.9	—	42.7 100	53.6	18.6	26.4	1.4	33.8	3.1
	農業科	100	39.0 100	23.7	70.9	3.6	1.8	28.4 100	15.0	70.0	15.0	—	32.6	—
	その他（不明を含む）	100	21.8 100	40.2	46.0	11.5	2.3	33.8 100	26.7	41.5	31.8	—	42.6	1.8
在学中の希望部門	事務部門	100	12.2 100	30.2	43.8	26.0	—	48.7 100	66.2	11.0	22.3	0.5	36.1	3.0
	技術部門	100	21.9 100	13.0	80.9	5.1	1.0	42.3 100	2.0	87.5	9.9	0.6	33.1	2.7
	生産部門	100	47.7 100	37.8	54.8	6.5	0.9	11.7 100	12.0	39.8	45.8	2.4	39.5	1.1
	その他	100	13.3 100	35.1	46.0	16.2	2.7	39.6 100	3.6	10.0	84.6	1.8	44.2	2.9
	不明	100	19.6 100	60.0	30.0	10.0	—	※13.7 100	—	28.6	71.4	—	60.8	5.9

注）　※印はサンプルが少ない。

図4. 生産部門の仕事への定着意識



なお、「続けたい」理由としては、男子は「技術を身につけるため」、女子は「事務にむいていないので」が高率である。

一方事業所調査結果によると、生産部門に従事する高卒者の将来の配置については、「履修課程にこだわらず、本人の能力適性によって配置する方針」をとっている割合が7割近く、「履修課程にこだわらず生産部門に継続して従事させる方針」は2割にみたない。（表22）

表２２　生産部門に従事する高卒者の将来の配置についての事業所の方針

（%）

		計	部門に従事させ続けるだけのこと	能力適性に本人によって配置するわけではない	配置をきめる履修課程により
計		100	18.1	66.2	15.7
規模	500～999人	100	21.4	62.3	16.3
	1000人以上	100	15.1	69.8	15.1

(6)　仕事や職場に対する希望

現在生産部門の仕事に従事していての希望事項としては「職場の環境を改善してほしい」「意見をとりあげてほしい」が３０%をこえている。

性別にみると、男女とも「職場の環境を改善してほしい」「意見をとりあげてほしい」は同じ傾向であるが「仕事に関する教育訓練の機会を作つてほしい」「職場間の人事交流をはかってほしい」については男女間に差がみられる。

履修課程別にみると、「意見をとりあげてほしい」「職場の環境を改善してほしい」は各学科とも３０%台を占め、「仕事に関する教育訓練の機会をつくってほしい」は工業科、農業科に高くなっているが、このことは前記「定着意識」（表２１）からみて、生産部門の仕事を続けたいと希望する者のうち、技術を身につけるためと答えた割合の高いところからの関連が考えられる。（表２３）

表２３　仕事や職場に対する希望（ＭＡ）

（%）

		計	仕事に関する訓練や教育をしてほしい	意見をとりあげてほしい	人事の交流をはかってほしい	職場の環境を改善してほしい	その他	無記入 不明
計		100	25.2	32.2	21.4	35.6	5.0	4.4
性	男子	100	29.4	30.9	17.8	36.8	5.3	4.4
	女子	100	15.5	35.0	29.6	32.8	4.4	4.4
履修課程	普通科	100	19.4	33.3	24.9	37.2	5.5	3.8
	工業科	100	31.6	30.1	17.7	36.4	5.1	5.2
	商業科	100	19.2	32.9	24.4	34.5	4.9	4.6
	農業科	100	24.1	34.8	24.1	31.2	2.8	2.1
	その他（不明を含む）	100	17.8	36.3	24.8	30.1	4.3	3.3

注）　１人で２つ以上の回答があるので計は１００をこえる。

(7)　将来の職業生活についての意識

当面、生産部門の仕事を続けたいと表示するものは２４.１％であるが、将来も「技能労働者として生産に携わる」希望者は１１.９％である。

将来の職業生活の希望は、男女により差がはっきりしており、男子では「専門的技術者となって会社でつとめたい」女子では「免許資格のいる職業につきたい」が、それぞれ３８.３％、４３.３％と割合が高い。

なお、「まだ何も考えていない」が全体の約$\frac{1}{4}$近くあり、特に女子では３５.２％を占めている。（表２４）

表２４　将来の職業生活についての意識（ＭＡ）

（%）

		計	有能な技能者として働き直わ	専門的技術者となって生産に携わり	会社の高い地位に昇進したい	現在の仕事を独立して生活したい	免許資格のある職業につきたい	まだ何も考えていない	その他	不明無記入
計		100	11.9	28.4	3.3	5.5	20.9	24.2	6.3	2.1
性	男子	100	15.1	38.3	4.3	7.7	10.9	19.3	5.9	1.8
	女子	100	4.5	6.1	1.2	0.4	43.3	35.2	7.3	2.8
履修課程	普通科	100	11.2	14.1	2.9	2.5	32.5	30.6	5.7	1.9
	工業科	100	12.6	44.2	3.7	7.8	9.3	17.4	6.5	2.0
	商業科	100	10.4	12.2	5.2	5.5	24.7	31.4	8.5	4.0
	農業科	100	15.6	24.8	2.8	3.5	31.2	21.3	3.5	0.7
	その他（不明を含む）	100	10.3	13.3	1.5	4.3	32.8	31.3	6.5	1.8

注）　１人で２つ以上の回答があるので計は１００をこえる。

4　事業所における勤労意欲向上対策

事業所が生産部門に従事する高卒者の勤労意欲向上のためにとっている施策としては、「提案制度」の実施が約７０％、つづいて「職場カウンセリング」「定期的人事異動」「責任分担制度」などが多くとりあげられている。（表２５）

表２５　事業所における生産部門に従事する高卒者に対する勤労意欲向上のための配慮（ＭＡ）

（%）

		計	職務再編成	提案制度	責任分担制度	自己管理制度	生産計画についての意見聴取	定期的人事異動	職場カウンセリング	特にやっていない	その他
計		100	14.7	69.1	27.5	17.6	25.0	29.9	37.3	15.2	47.1
規模	500～999人	100	14.3	69.4	24.5	12.2	26.5	28.6	32.7	15.3	54.1
	1000人以上	100	15.1	68.9	30.2	22.6	23.6	31.1	41.5	15.1	41.5

注）　１つの事業所で２つ以上の回答があるので計は１００をこえる。

様式第１号

行政管理庁承認№7035
昭和44年10月20日まで

生産現場における高卒青少年労働者の意識に関する調査

事　業　所　票

（44 年 9 月）

㊙

労働省婦人少年局

婦人少年室名			
調査者氏名			
調査月日	月　日		
整理番号		規模番号	

事業所名		面接者役職氏名	
事業所所在地			
主要製品名又は事業内容		常用労働者数（　　）人	
		うち生産工程作業者数（　　）人	

（注）特にことわりのない場合は一つだけ選んで記号に○印をつけて下さい

Ⅰ　青少年労働者数（15～21才）

職種＼学歴性	計	男	女	うち高校卒		
				小計	男	女
計						
事務従業者						
技術的業務従事者						
生産工程従事者						
その他						

Ⅱ　高卒従業員の処遇

1　高卒者の採用、配置について

(1)　採用時職種を明示していますか

イ　職種を明示しないで採用する
ロ　職種を明示して採用する
ハ　その他（　　）

(2)　配置の時期はいつですか

イ　採用後すぐ配置する
ロ　一定期間の研修後配置する
ハ　その他（　　）

2　生産部門に従事する高卒者の将来の配置について、どう考えていますか

イ　履修課程にはこだわらず、生産部門に継続して従事させる方針である（　　）
ロ　履修課程にはこだわらず、本人の能力適性によって配置する方針である
ハ　履修課程により配置をきめる方針である

○　その内容はどうなっていますか

工業課程	イ　生産部門に継続従事させる	ロ　技術部門に配置させる	ハ　事務部門に配置させる
普通課程	イ　生産部門に継続従事させる	ロ　技術部門に配置させる	ハ　事務部門に配置させる
商業課程	イ　生産部門に継続従事させる	ロ　技術部門に配置させる	ハ　事務部門に配置させる
その他の課程	イ　生産部門に継続従事させる	ロ　技術部門に配置させる	ハ　事務部門に配置させる

3　生産部門に従事する高卒者に対する昇進・昇格は他の部門に従事する高卒者と比べてどうですか

(1)　生産部門を技術部門に比べると

イ　生産部門が有利　　ロ　技術部門が有利　　ハ　差異はない

(2)　生産部門を事務部門に比べると

イ　生産部門が有利　　ロ　事務部門が有利　　ハ　差異はない

4　生産部門に従事する高卒者の昇進・昇格はどのように行われていますか（該当事項に○印をつけて下さい）

イ　人事考課
ロ　試験制度
ハ　自己申告制度
ニ　その他（　　）

5　生産部門に従事する高卒者が工場長、重役へ昇進できる道がひらかれていますか

イ　すでに昇進・昇格できる道がひらかれている
ロ　目下その具体的方法を検討中
ハ　将来検討する予定
ニ　考えていない

6　現在の給与体系からみて、新規高卒採用者が生産部門において３０才になった場合の賃金は他の部門と比べてどうですか

(1)　生産部門を技術部門と比べると

イ　生産部門が高い　　ロ　技術部門が高い　　ハ　差異はない

(2)　生産部門を事務部門と比べると

イ　生産部門が高い　　ロ　事務部門が高い　　ハ　差異はない

Ⅲ　生産部門に従事する高卒者に対する勤労意欲向上のための配慮について

(1)　現在どのようなことをしていますか（該当事項に○印をつけてください）

イ　職務再編成（ジョブ・リデザイン）
ロ　提案制度
ハ　責任分担制度
ニ　自己管理制度
ホ　生産計画についての意見聴取
ヘ　定期的人事異動
ト　職場カウンセリング
チ　特にやっていない
リ　その他（　　）

(2)　今後どのようなことを考えていますか。内容を簡単におかきください

様式第２号

行政管理庁承認№7036
昭和44年10月20日まで

生産現場における高卒青少年労働者の意識に関する調査

個　人　票

（44年９月）

㊙

労働省婦人少年局

婦人少年室名		整理番号		産業（中分類）	常用労働者数	事業所所在地	事業所名
巡点検者氏名		規模番号			人		TEL（　）

ここからおかきください。回答は（　）内に、または該当事項を一つだけ選び記号に○印をつけてください

Ⅰ　あなたのことについて

性	イ 男　ロ 女	年令	（　）才
居住状況	イ 自宅　ロ 会社の寄宿舎・寮　ハ 間借 ニ 民間アパート　ホ その他		
出身高校所在地	（　　）都道府県（　　）市町村		
出身高校	イ 全日制　ロ 定時制　ハ 通信制		
卒業課程	イ普通科　ロ工業科　ハ商業科　ニ農業科　ホその他		
勤続年数	この会社で（　　）年（　　）ケ月		
あなたのやっている仕事を簡単にかいてください		あなたは役付になっていますか 役付名	

Ⅱ　あなたの今までのことについて

1　現在の会社を選んだ理由はなんですか（該当事項２つ以内に○印をつけてください）

- イ　有名な会社だから
- ロ　将来性のある企業だから
- ハ　会社の製品に関心が高かったから
- ニ　この会社の仕事に興味があったから
- ホ　賃金等の労働条件がよいから
- ヘ　福利厚生面がすぐれているから
- ト　親・教師・先輩などのすすめがあったから
- チ　公共職業安定所の紹介があったから
- リ　他によいところがなかったから
- ヌ　その他（　　）

2　あなたが生産部門の仕事についたのはどういうわけですか

- イ　現場の仕事に自分が適していると思ったから
- ロ　高校で学んだ知識・技能を生かしたかったから
- ハ　仕事の分野については特にこだわらなかった
- ニ　希望はしなかったが生産部門に配属された
- ホ　さまざまの仕事を経験したかったから
- ヘ　その他（　　）

3　現在の会社は高校卒業後、初めての勤め先ですか

イ　初めて　ロ　2回目　ハ　3回目　ニ　4回以上

(1)　前の勤め先で生産部門で働いた経験がありますか

- イ　経験あり
- ロ　経験なし

4　この会社では就職以来、ずっと生産部門で仕事をしていますか（教育実習は除く）

- イ生産部門だけにいる
- ロ初め生産部門についたが一時期他部門にいたことあり
- ハ入社時は他部門に入り後に生産部門に配属された
- ニその他（　　）

(1)生産部門に配属されることをいつ知りましたか

- イ応募の時点
- ロ採用決定の時点
- ハ入社の時点
- ニ入社後一定の教育期間後
- ホその他（　　）

(2)自分から希望したのですか

- イ　自分から希望した
- ロ　希望しなかった

欄1

5　高校在学中どの部門で働きたいと思っていましたか

イ　事務部門　ロ　技術部門　ハ　生産部門　ニ　その他（　　）

6　入社後現在の仕事に必要な教育訓練をうけたことがありますか

- イ　うけた → (1)どこでうけましたか
- ロ　うけない

- イ　事業所内で延（　　）時間又は（　　）日
- ロ　公共職業訓練所で延（　　）時間又は（　　）日
- ハ　その他の機関で（　　）時間又は（　　）日

Ⅲ　現在の仕事について

1　現在の勤務形態は下記のうちどの形態ですか

- イ　定時勤務
- ロ　深夜業を含まない交替制
- ハ　深夜業を含む交替制
- ニ　その他（　　）

2　あなたは現在の仕事をどう評価していますか

(1)　あなたは今の仕事に興味をもっていますか

イ　おもしろい　ロ　つまらない　ハ　何ともおもわない

ロその理由について簡単にかいてください

3　最近高校を卒業した人が工場などの現場で仕事をすることがふえたといわれますが、次のうちあなたのお考えに最も近いものに一つだけ○印をつけてください

- イ　今にブルーカラー中心の時代になるから高卒は大いに生産現場に就業するのがよい
- ロ　今の現場作業には高校程度の学力が必要であり、高卒者の職場として適当である
- ハ　事務でも現場でも高卒者として働くことに差異は感じない
- ニ　高校を卒業したのだから現場で働くことには抵抗を感じる
- ホ　現場労働に対して社会的偏見があるのでわりきれない

Ⅳ　あなたは生産部門の仕事を続けたいと思いますか

イ　続けたい　ロ　変りたい　ハ　現在のところわからない

(1)　その理由は何ですか

- イ　事務には向いていないので
- ロ　技術を身につけるため
- ハ　その他（　　）

(2)　どんな仕事を希望していますか

- イ　事務関係
- ロ　技術関係
- ハ　その他

(2)　今の仕事はあなたにとってむずかしいと思いますか

イ　やさしい　ロ　むずかしい　ハ　ちょうどよい

(3)　高校教育をうけたことは、今の仕事に役立っていますか

- イ　役だっている
- ロ　役だっていない
- ハ　どちらともいえない
- ニ　わからない

(4)　今の仕事はきついと思いますか

- イ　肉体的に疲れる
- ロ　精神的に疲れる
- ハ　楽である
- ニ　普通である

(5)　職場内で現実に事務系と現場系で、処遇上差はあると思いますか

- イ　現場系が有利
- ロ　事務系が有利
- ハ　同じ
- ニ　何ともいえない

(6)　企業の中心は現場であると思いますか

イ　思う　ロ　思わない　ハ　何ともいえない　ニ　わからない

(7)　生産現場で働くことに生き甲斐があると思いますか

イ　思う　ロ　思わない　ハ　何ともいえない

(8)　生産現場で働くということを誇りに思いますか

イ　誇りに思う　ロ　誇りに思わない　ハ　何とも思わない

Ⅴ　現在生産部門の仕事に従事していて、仕事や職場について希望するものはどんなことですか

（該当事項に○印をつけてください）

- イ　仕事に関する教育訓練の機会をつくって欲しい
- ロ　現場で働く人の意見をもっととりあげてほしい。
- ハ　職場間の人事の交流をはかって欲しい
- ニ　職場の環境を改善して欲しい
- ホ　その他（　　）

Ⅵ　将来の職業生活についてどのように考えていますか

- イ　有能な技能労働者として直接生産に携りたい
- ロ　専門的技術者となって会社でつとめたい
- ハ　会社の高い地位に昇進したい
- ニ　現在の仕事を生かして独立し事業をおこしたい
- ホ　免許資格のいる職業につきたい（教師・栄養士など）
- ヘ　まだ何も考えていない
- ト　その他（　　）

GAa1

労働省婦人少年局

女性と仕事の未来館

館内

0076313 4